

小学校高学年の部

最優秀賞 [大分県教育の日推進会議会長賞]

わたしのふるさと

由布市立東庄内小学校 6年

ことう めい
後藤 芽

みなさんは、「自然」と聞いてどのようなことを思い浮かべますか。私の住んでいる庄内町は、自然が豊かです。私が「自然が好き」と感じられるようになったのは、小学校生活にありました。

私が通う東庄内小学校では、四年生の時から、自然について学びます。私は、これまで庄内は田舎で、山ばかりで、虫が出るからいやだなと思っていました。しかし今は自然は私をいやしてくれる存在になりました。

毎年、四年生から六年生を中心に、「緑の教室」が行われています。末光さんという地域の方が夏の大三角や星座について教えてくれ、夜は星座の観察を開いてくれたり、学校のしき地にある「学びの森」の植物の種類などを教えてくれたりします。

心に残っているのは、実際に学びの森に行き、葉や木の実をさわって、覚えたことです。その時に、「ネイチャゲーム」といって植物の葉と実などの組み合わせをビンゴゲームで、たのしくわかりやすく覚えたことです。

それ以降私は、教室から外を見ると四季を感じられることが庄内ならではのよい所だと思うようになりました。春には桜、夏には青々としたマダケ、秋にはいちょうやイロハモミジ、冬にはまっ白なユキヤナギ。私は登校中に登る多々良坂の植物を好きになっていました。

特に東庄内小学校は、少し小高い丘に立っているため、360度どこを見ても自然豊かな緑が見られることを、私はありがたく思っています。私の担任の先生は、大分市から来ているのですが、給食の時にいつも、「ピクニック気分で食べられるからいいわあ」といっています。

なんといってもこの自然がいつもきれいに保たれているのは、スクールサポートの先生や、末光さんが、空き時間に手入れをしてくださっているからです。

また、学校生活だけではなく、庄内の祖父の家では、うぐいすの鳴き声やかえるの声などでも季節を感じることができます。虫が苦手な私でも庄内町の自然について学んでいたら自然についてもっと知りたくなったり、虫の声などをきいたりすることが生活の中になじむようになりました。

私は、庄内町の自然についてたくさんの人に知ってほしいと思います。自然があるということは、人間や動物にとって心のゆとりにつながると私は考えます。

それは末光さんに出会って、私の中で新しい知識が増えたり、毎日の忙しい時間の中で外に出て、自然とふれあうことで、植物の生きる知恵を感じたりできたからです。

こんな素敵な人たちに囲まれたふるさととは私のじまんです。